

1 中1ギャップ問題とは



全国の小学校6年生時と中学校1年生時の不登校者数を比べると2倍以上になっています（くわしくは下のグラフのとおり）。

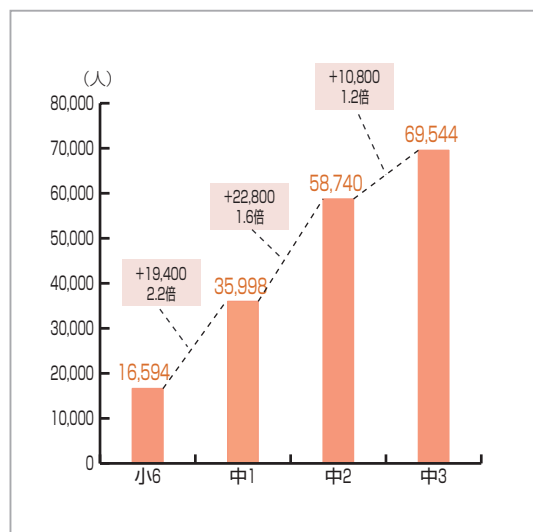
小学校と中学校では、さまざまな面で違いがあります。「中1ギャップ問題」とは、小学校から中学校への進学時において、新しい環境での学習や生活にうまく適応できず、学習面でのつまづきや不登校等が生じる問題です。

とくに学習面では、小学校から中学校への進学にあたって、授業の内容や進度について不安や負担に感じる子どもは急増します。

また、家庭での学習方法を小学校のうちから身につけておいたほうがよかったと子ども自身で感じています。中学生になると、予習・復習、テスト対策も含め、自主的な学習の進め方が必要となってくるからです。

しかし、これまでの生活を一変し、突然、生活環境を改善するというのは、大人でも大変なことです。家庭学習の習慣は、コツコツと身につけていくことがとても大切なのです。

令和元年度小学校6年生不登校者推移
(令和4年度現在中学校3年生)



文部科学省「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」より

小・中学校の主なギャップ例

学習面

小学校は学級担任制であるのに対し、中学校では教科担任制

授業時間（基本）は、小学校では45分、中学校では50分

各児童生徒の小学校時点における学習上の課題が、中学校と十分に共有されていない

中間・期末テスト等、定期テストに対する家庭での計画的な試験対策の必要性

学校生活面

各児童生徒の小学校時点における生徒指導上の課題が、中学校と十分に共有されていない

より濃い先輩・後輩という人間関係の出現
(部活動の開始など)

中学校では小学校と比較して生徒に課せられる規則が多く、その規則に基づいたより厳しい生徒指導がなされる傾向にある

異なった小学校から来た生徒との人間関係の構築が必要



一緒に学習してやる気を起こさせる

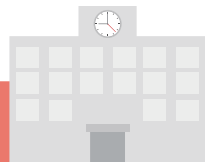
ひとりで学習の内容や方法を決めることは、まだ無理なので一緒に考えてあげよう。

- 子どもの考えや色々な疑問に向き合い、わからないことは一緒に調べよう。
- 書いているのを見たり、読んでいるのを聞いてあげよう。子どもにとってはうれしいことだよ。
- まずは宿題を確認して、宿題からやりきろう。
- 学校からの連絡やお便りを一緒に確かめよう。

1.2 この頃の育ちの特徴

低学年の子どもは、「もっと知りたい」「もっとできるようになりたい」という好奇心でいっぱい。できないことをしかるより、“しようとする気持ち、できるようになったこと”を「自分でやろうとするのはすてきだよ」「ここまでよくできたね」と認めてほめることで、さらにがんばるようになります。

学校での主な学習内容



- ・ひらがな、カタカナの読み書き（1年）
- ・「て、に、を、は」を使い分けて文章を書く（1年）
- ・80字程度の漢字の読み書き（1年）
- ・160字程度の漢字の読み書き（2年）

国語

家庭学習のヒント

【学習時間のめやす 10～30分】



- ・教科書の音読
- ・日記や作文（順番を考えて）
- ・ひらがな、カタカナ、漢字練習など

※音読は、声に出すことで文章の内容が理解できているかどうかをはかれるバロメーター。低学年は、意味のまとまりごとに読んでいるか、句読点（「、」や「。」）を意識しているか、大きな声で読んでいるか、棒読みになっていないかに注意しながら聞いてあげましょう。

- ・100までの数を数えたり、表したりする（1年）
- ・1けたのたし算、ひき算（1年）
- ・簡単な2けたのたし算、ひき算（1年）
- ・2けたのたし算、ひき算の暗算や筆算（2年）
- ・かけ算（九九の暗記）（2年）

算数

- ・計算練習
- ・問題（たし算、ひき算のお話）づくり など

※お菓子を分けるなど、日常生活でも楽しく数量に触れる経験をさせてあげてください。
※九九の表を部屋やトイレの壁など、いつも目につく場所に貼りましょう。

- ・鉛筆を正しく持つ
- ・明日の学習を準備する
- ・整理整頓をする

その他

- ・読書
- ・かんさつノート（花の咲く様子など）

※体の大きさに合った椅子を用意し、よい姿勢で座れるようにしてあげてください。20分間よい姿勢で座ることができるかが1つのめやすです。
※学習前に身の周りの整理整頓をさせましょう。

学校では・・・

「読み、書き、計算」などの基礎的な学習がはじまります。多くは身の周りの生活と結びついて、具体的な物を使って考えたり、繰り返し練習して、学習内容を自分のものにしていきます。



認めてほめて自信をつけさせる

自立心がめばえて自分でやろうとすることが多くなるけど、まだ手助けが必要だよ。

- まず学校からの宿題、そして好きなものを自主的に学習させる習慣をつけよう。
- 子どもがわからないところは、一緒に考えてあげよう。
- 辞書や地図、新聞などを身近に置いて自主学習に活用させよう。
- あたたかい助言やはげましが、子どもたちのやる気を後押しするよ。
- やりとげたという喜びは、学習習慣を身につけることにつながっていくよ。

3.4 この頃の育ちの 特徴

中学年の子どもたちは、学校生活に慣れてくるとともに、自分でできることも多くなってきます。その一方、1・2年生で身につけた学習習慣がくずれがちになったり、勉強が急に難しくなったと苦手意識を持ったりする子どもも出てきます。

また、みんなと行動することを好むとともに、口ごたえや反抗が少しずつ見られるようになる時期です。

学校での主な学習内容



- ・200字程度の漢字の読み書き（3・4年）
- ・国語辞典を使う（3年）
- ・漢和辞典を使う（4年）
- ・簡単なことわざ（3年）
- ・ローマ字の読み書き（3年）

家庭学習のヒント

【学習時間のめやす 30～50分】



- ・教科書の音読
- ・日記や作文（中心をおさえて）
- ・漢字練習
- ・ローマ字の学習
- ・国語辞典を使っの学習

国語

※中学年以降の音読で気をつける点は、読む「ねらい」をつけること！ 悲しい場面ではトーンを落として悲しそうに、楽しいシーンでは、うきうきはつらつと読むように促してみましょう。ただし、音読はあくまで楽しくやるのが大切。子どもが音読嫌いにならないよう注意しましょう。

算数

- ・3けた、4けたのたし算、ひき算（3年）
- ・わり算（3年）
- ・はかりを使って重さを読む（3年）
- ・小数のかけ算、わり算（4年）
- ・分母が同じ分数のたし算、ひき算（4年）
- ・わり算の筆算（4年）

- ・計算練習
- ・問題（式を立ててからの文章問題）づくり

※九九が暗唱できているか確認してあげましょう。答え合わせを一緒に行い、間違った問題は必ずやり直すことが大切です。

その他

- ・乾電池や磁石、鏡を使った実験（3年）
- ・地図帳や資料集を使って調べる（4年）
- ・金属や水の性質、電気の働き（4年）

- ・読書
- ・かんさつ日記（植物や昆虫など）

※地図を部屋の壁など、いつでも目につく場所に貼って、テレビ等で話題が出たらその都度場所を探してみましょう。

学校では・・・

総合的な学習の時間、社会、理科の学習がはじまり、学習範囲も大きく広がります。また、辞典や地図帳などを使って調べ学習をすることが多くなります。



小学校
5・6年生

見守ってはげまし、自主性を伸ばす

宿題と授業の復習を中心に、計画を立てて学習を進めていけるよう見守っていこう。

- 子どもの学習や将来の夢に関心を持って声をかけよう。
- ほかの子どもとの比較ではなく、昨日のわが子と比べ、ちょっとしたがんばりをほめていこう。

5.6 この頃の育ちの 特徴

高学年の子どもたちは、自立の心が大きく育ちます。自分を一人前と認めてくれているか、大切にしてくれているかなど、大人の評価がとても気になる時期。ときには反抗も見られます。また、中学生になると、自分で責任をもって決定することが必要となります。自分の意思をはっきりと持たせ、中学校で自主性を求められたときに「何をしたらいいのかわからない」状態にならないよう準備させましょう。

学校での主な学習内容



- ・193字程度の漢字の読み書き（5年）
- ・今まで習った漢字の熟語を書く（5年）
- ・パソコンでローマ字の入力（5年）
- ・191字程度の漢字の読み書き（6年）
- ・小学校で習った漢字の読み書き（6年）
- ・小学校で習った熟語を書く（6年）

国語

家庭学習のヒント

【学習時間のめやす 50～70分】



- ・教科書の音読
- ・日記や作文（自分の考えを明確にして）
- ・漢字練習
- ・国語辞典や漢字辞典を使っでの学習

※作文を上達させるには、普段の会話の際、単語だけで話してくる場合は「それはどういうこと？」「誰が？」「いつ？」など、筋道を立てて話すよう導いてあげましょう。不在時のメモのやりとりも訓練になります。

- ・異分母のたし算・ひき算（5年）
- ・割合・百分率を使った問題（5年）
- ・分数のたし・ひき・かけ・わり算（6年）

算数

- ・計算練習
- ・算数さがし（身の周りの比例、割合、立体）

※間違った問題は必ずやり直すことが重要です。わからないところがある場合は、次の日に学校で先生に教えてもらうようにさせてください。

- ・人の誕生や成長（5年）
- ・物の動きや規則性（5年）
- ・重要な年号の暗記（6年）
- ・社会や世界に目を向けた学習（6年）

その他

- ・新聞やインターネットを活用した学習
- ・自主学習（授業の予習・復習）
- ・ニュースについて話し合う

※「学習が終わったら、遊びに行ったりテレビゲーム等をしてよい」などのルールを決め、それを徹底させましょう。

学校では・・・

家庭科の授業がはじまるほか、社会や世界に目を向けた学習など、学ぶ内容が多くなります。また、筋道を立てて考える理論的内容や、抽象的な思考をともなう学習が増えます。